

令和7年度
「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立我孫子中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は、以前見られた校内の「荒れ」は収まり、生徒たちは落ち着いた状態で学校生活を送ることができた1年であった。文化発表会や体育大会など、学校行事にクラスや学年、またその枠を超えて協力し、取り組む姿があらゆるところで見ることができた。

しかし、それに比して学力を上げることはかなわなかった。平均無答率の減少や、正答率3割以下の減少といったところに成果は見られたが、全体として前年を超える結果を出すことができなかった。ICTの効果的な使用法や授業研究等、来年度に向けて更なる研鑽が必要である。

不登校傾向にある生徒は、前年度と同程度で推移している。SSWやSC等外部機関とも連携し、きめ細やかな対応に努めてきた。改善傾向にある生徒も出てきている。引き続き、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める活動や、多様性を尊重する取り組み等を通じて、学校を「安心できる居場所」とする取り組みを進めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。《令和7年度 6.7% 令和6年度 6.7%》

○令和7年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を98%以上にする。《令和7年度 97.0%》

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、60%以上にする。《令和7年度 57.3%》

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。《令和7年度 62.6%》

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。《令和7年度 82.5%》

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教員の割合を、令和7年度末に84.9%にする。

(基準2…1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2~6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、をすべて満たす) 《令和7年度 71.79%》

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度(6.7%)より減少させる。

○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。(前年度96.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56.0%以上にする。(前年度47.8%)

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を61%以上にする。(前年度60.4%)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の年度目標に対する達成状況は以下の通りである。

【安全・安心な教育の推進】

○2学期末の時点で、不登校生徒の在籍比率は**6.7%で目標の前年度より減少させることはできなかった。**前年度(6.7%)

○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は**97.0%で目標の97%以上に達した。**(前年度96.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)**57.3%で目標の56%以上に達した。**(前年度47.8%)

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答した生徒の割合は**62.6%で目標の61%以上に達した。**(前年度60.4%)

【学びを支える教育環境の充実】

○1月末の時点で、授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は**2日で目標の年間授業日の50%以上に達することはできなかった。**

○ 2月末時点で第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合は **71.79%**で**目標の70%以上に達した。**

年度目標以外の「大阪市教育振興基本計画」における令和7年度末の目標値との比較は以下の通りである。

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、
肯定的に回答する生徒の割合 **90.2%** (目標値 **82%**)
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、
肯定的に回答する生徒の割合 **97.6%** (目標値 **95%**)
- ・「自分には、良いところがありますか」に対して、
肯定的に回答する生徒の割合 **82.8%** (目標値 **77%**)
- ・全国学力・学習状況調査における
平均正答率の対全国比 **国語 0.98 数学 1.18** (目標値 **1.00**)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における
体力合計点の対全国比 **男子 0.94 女子 1.11** (目標値 **1.01**)

年度目標については、調査結果からも読み取れるように、概ね達成できており、未達の目標においても、目標値とは大きな差はなく前年度よりも向上しているものがほとんどで、取り組みの成果が表れているといえる。今後も引き続き、課題解決に向けての取り組みについての成果と課題を全教職員で検証、共有し、安全・安心できる学校運営に努め、「信頼される学校」をめざしていく。現状に満足することなく、生徒の豊かな心の育成を図り、学校教育目標にある『自ら学び、考え、行動でき、たくましく生きる子どもを育てる。』ことを目指し、一人一人の生徒にとって安全・安心な教育環境を実現していきたい。

大阪市立我孫子中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度(6.7%)より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。(前年度96.7%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>教育相談・校内アンケートを年2回実施する。</p> <p style="text-align: right;">(生徒指導部)</p>	B
<p>指標</p> <p>・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(前年度96.1%)</p>	
<p>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>週1回以上集会を実施し、「学校生活」について講話をする。</p> <p style="text-align: right;">(生徒指導部)</p>	A
<p>指標</p> <p>・年度末の校内調査における「先生は、自分の間違っただ行動には厳しく指導してくれる。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度よりも増加させる。(前年度96.1%)</p>	
<p>取組内容③【2、豊かな心の育成】</p> <p>・将来の夢や希望を持てるようなキャリア教育を充実させる。芸術鑑賞を実施し、他者を思いやることのできる豊かな心を育成し、自己有用感や自己肯定感を高める。</p> <p style="text-align: right;">(生徒指導部)</p>	A
<p>指標</p> <p>・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思う。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(新規質問項目)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は97.0%で90%以上にする事ができた教育相談をGW後の5月と夏休み明けの9月上旬に実施している。</p> <p>いじめについてのアンケートは6月、11月に実施している。3学期には2月に実施予定である。</p>	

相談内容、記載内容については学年で共有し課題の早期解決に役立てている。必要に応じて主任会での検討や教職員全体での共有を行っている。

- ②年度末の校内調査における「先生は、自分の間違った行動には厳しく指導してくれる。」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は **97.9%で前年度よりも増加させることができた。**（前年度 96.1%）

原則、月曜日に全校集会、水曜日に1年生、木曜日に2年生、金曜日に3年生の学年集会を実施している。

生徒に司会進行を任せるなど主体的に参加できるようにし、リーダーの育成とともに、自己有用感の醸成を行っている。

学校生活における課題については、繰り返し伝え、間違った行動に関してはすぐに改善できるように進めていっている。それ以外にも、その時々で必要な話、学年または全体で共有すべき話をしている。

- ③年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思う。」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は **97.6%で90%以上にすることができた。**

豊かな心を育むため、プロの芸術を鑑賞させて生徒の情操を高めることを目的として、9月に芸術鑑賞を実施した。今年度はア・カペラによる音楽の鑑賞を行い、出演者と生徒が一体となる場面もあり、文化的な取り組みとして、次の日の文化発表会につなげることもできた。

今後の改善点

不登校生徒について在籍比率は大阪市の平均を下回っており、人数も含めて大きく増加しているわけではないが、改善が見られず不登校の状態が長期化する生徒が多数在籍している。支援体制を充実させるために、校内教育支援センター設置支援事業への申請とともに、新たな取り組みの検討を継続させていく。

不登校に限らず、生徒間トラブルや授業規律が確立していないことから生じる生活指導上の課題は多い。自己肯定感や自己有用感を醸成する取組を行うことで、改善していきたい。

大阪市立我孫子中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56.0%以上にする。(前年度47.8%)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を61%以上にする。(前年度60.4%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語、数学、英語における習熟度別少人数授業を展開し、きめ細かな指導をする。 (教務部)</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度のチャレンジテストの正答率3割以下の生徒を、どの学年も令和3年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NETと連携し、各学年月に3回程度のC-NETとの授業を行い、英語に対する興味関心を醸成するとともに4技能の向上を目指す。 (教務部)</p>	A
<p>指標</p> <p>・本校を準会場とした英語検定を複数回実施する。</p>	
<p>取組内容③【5、健やかな体の育成】</p> <p>月1回、「食育だより」を発行する。また、食堂での展示食やホワイトボードでの啓発活動を通じ、食に関する意識を高める。 (健康安全教育部)</p>	A
<p>指標</p> <p>・年度末の校内調査における「朝食を毎朝食べている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。(前年度89.3%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①令和7年度チャレンジテストにおける3年生の正答率3割以下の生徒の割合は全体の8.9%で令和3年度(13.8%)より4.9%減少している。</p> <p>基礎・基本の学力を定着させるために、教材を工夫し、きめこまかい指導を行っている。授業内においては、問題に取り組む際に机間指導しながら、生徒の状況に応じて必要な支援を行っている。</p> <p>授業・テストへの取り組み姿勢についても、学校生活の様々な場面で繰り返し話している。</p>	

②英検については、英語科以外の教員からも試験監督の協力を得て、**1, 2学期に学校を準会場として実施した。**1年生は延べ24名、2年生は延べ20名、3年生は延べの受検者があり、生徒・保護者の関心が高いなかで、受検の機会を設定することができた。次年度以降の実施については、学校行事の精選や教職員の負担軽減も含めて検討が必要である。

C-NETとの授業は時間割や授業進捗の関係で各クラス月1～2回の割り振りを行っている。C-NETの活用についてはこれまで以上に連携を密にし、引き続き工夫していくことが必要である。

③年度末の校内調査における「朝食を毎朝食べている。」に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は**90.8%で前年度より増加している。**(前年度89.3%)

「食育だより」は、毎月発行し、食堂ではICTを活用した給食指導や玄関に食育の掲示などを行った。全国学力・学習状況調査の「食育において、(食について)考えることができた」に対して肯定的な回答が92.3%で昨年度より5.3%高く、食に関する意識を高めることができた。

また、同じく状況調査において、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答は、90.8%で昨年度より7.5%高くなった。これは、全校集会での啓発や、家庭科や住吉区保健福祉センターなどの連携での食育の取り組みを行ったためである。9月には、食育つうしんや全体集会でも朝食喫食の啓発を行った。

今後の改善点

3年生における中学生チャレンジテストの平均点は英語も含めて大阪府の平均を上回るものとなっているが、その反面、大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は大阪市の平均を下回っており、検証が必要である。栄養教諭を中核とした食に関する組織的な取り組みを進めていきたい。

(様式 2)

大阪市立我孫子中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。 ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 70%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育DXの推進】 各教科において、ICT 機器を活用した授業を展開する。 <div style="text-align: right;">(ICT 委員会)</div>	C
指標 ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。	
取組内容②【6、教育DXの推進】 授業内容を Teams に投稿する。 <div style="text-align: right;">(教務部)</div>	A
指標 ・生徒の提出物（ノート、学習プリント等）の提出率を 90%以上にする。（前年度 89%）	
取組内容③【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 行事予定に「ゆとりの日」を入れ、教職員の働きやすい環境を整備する。 <div style="text-align: right;">(管理職)</div>	B
指標 ・毎月複数回「ゆとりの日」を設定する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 1 月末時点での生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数 2 日である。 学習者用端末の活用については、課題が多い。夏季休業中前に、端末の更新に合わせ、回収を行っていたため、活用できていなかったが、10 月に端末の更新を完了させてからは、少しずつ改善できている。学習者用端末利活用率は、8 月以降 10%台を推移していたが、11 月 45.3%（前年度 19.2%）12 月 52.7%（前年度 17.5%）となっている。プロジェクターの利用による『視認性の向上』や『授業の効率化』については教科によるばらつきはあるものの活用を進めている。 「デジタル教科書」や「デジタルドリル」の利用を向上させるための環境整備とともに、学習活動に応じた使い方のルール作成等の整理や、情報モラル教育の充実が必要である。そのような状況な中で、今年度より生徒委員会に新しく設置した ICT 委員による情報モラルの向上を推進している。	

② **2 学期末時点での平均提出率は 92.2%であった。**

授業内容を使用した教材とともに投稿している。今後、生徒の活用状況も向上できるよう工夫が必要である。

③ **「ゆとりの日」を毎月 2 回、月中行事にも入れ、働きやすい環境整備に努めている。**

実態としては教職員の負担軽減につながらないことが多く、今後の課題である。

1 2 月時点での第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合は昨年度の 87.18%に対して 100%であった。

※次のアからエまでの基準を満たすこと

ア 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間を超えないようにすること

イ 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超える月を 1 年間に 6 月までとすること

ウ 1 か月の時間外勤務時間が 100 時間を超えないようにすること

エ 連続する複数月(2 か月、3 か月、4 か月、5 か月、6 か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の 1 か月当たりの平均が 80 時間を超えないようにすること

今後の改善点

学習者用端末の活用については引き続き活用を推進し、特に「心の天気」については担任任せではなく、学年、学校全体で利用率を向上させるために、入力が習慣化できるような取組をする。

引き続き、年休の取得やテレワークの活用、介護や育児による勤務時間の割振りの変更を推進し、教職員の安全衛生に配慮するとともに、ワークライフバランスを充実させる。